



4月28日に行われた誕生の森記念植樹で、船木さん親子(左)と富樫さん親子

大きく育ててネ

子どもが1歳になったので参加しました。天気もよくて、子どもと一緒にとてもさわやかでした。今日植えた杉の苗木、どのくらい大きくなるのか、楽しみがひとつ増えました。子どもにも、杉の木のようにたくましく育てて欲しいですね。

おしゃべり

あきれほどのポイ捨て

廃棄物収集業を営む22社の会員に呼びかけて、添川と上新城を結ぶ県道を清掃しました。ポイ捨ての空き缶や不法投棄のごみが2トントラックで8台分。どれもルールを守れば、きちんと処理できるものばかり。心ない行為はやめてください。



ボランティアで県道を清掃した秋田廃棄物処理協会の青藤兼雄会長



4月23日、文化デザイン会議のPRのため来秋した三枝さん

ひと

日本文化デザイン会議 '98秋田議長
三枝成彰さん

また「こまち夜楽」は、私たち秋田のみなさんが、お酒を飲みながら直接話ができる、またとない機会です。美しい秋田を強力にアピールする三日間、一緒に楽しみましょう。

デザイン会議を楽しみましょう
いよいよ五月二十九日(金)から三日間、日本文化デザイン会議秋田大会です。準備のため、もうかれこれ六回目の秋田通いとなりました。秋田大会のテーマは美人、美酒、美林の三美主義。これまでも全国の主要都市で何回か開いてきましたが、秋田の内容が一番華やかで面白いものになりそうです。
いろいろな分野で活躍する著名人が百六十人以上も秋田に集まり、この三日間で十年分ぐらいの講演をまとめて楽しむことができます。会場のアトリオンは、「知的な遊園地」ともいった雰囲気ですかね。「美」を見つめると、かなりエロティシズムにかかわる部分もでてきます。人間の行動や進歩は異性を意識することから始まるんじゃないかと思ったりしているものですから。
大友直人さんのコンサートや同時開催の千秋美術館の「お葉展」なども画期的なイベントです。

かわらばん



県内でただ一人、統計功労者大臣表彰を受けた淡路ひろ子さん

統計調査がんばりました

平成2年の国勢調査から始めて、物価や商業などいろいろな統計の調査員をしてきました。調査の対象となるみなさんが、がうちとけた雰囲気協力してください。限られた期間の活動ですし、これからも続けていきます。

日本文化デザイン会議の問い合わせは、秋田商工会議所内の実行委員会事務局 ☎(66)6690

今月の市長ホットラインは、お休みします。ご了承ください。 広聴相談室☎(66)2039

私の私読日記 本の抄々 沈黙の春 Silent Spring



市長
石川 錬治郎

この本が最初に出版されたのは一九六二年(昭和三十七年)から三十六年前である。その頃から環境問題に関心を持つ人間にとっては一種のバイブル的存在であったが、一般に広く知られるようになったのは有吉佐和子の新聞小説「複合汚染」(昭和五十年)でとりあげられてからのようである。私も「複合汚染」を読んで改めて「沈黙の春」を読み直したような記憶がある。それでは何故再び「沈黙の春」をとりあげるのか。それは今、「環境ホルモン」の危険や地球温暖化等、自然界に不気味な現象が広がっているからである。今年の秋田の桜の開花の時期も何かしら異常であった。

本書の書き出しは、「明日のための寓話」として、アメリカの奥深くわけ入ったところにある、自然の美しい町の姿を描写している。『ところが、あるときどういいうわけか、暗いかげがあたりしにのびよった。いままで見たことも聞いたこともないことが起こり出した。どうしたことが若鶏はわけの分からぬ病気にかかり、牛も羊も病気になるまで死んだ。どこへ行っても死の影。そのうち、突然死ぬ人もでてきた。なにが原因か、今もって分からない。元気がよく遊んでいっていると、ついに子供が急に気分が悪くなり、三時間後には冷たくなっていった。自然は沈黙した。鳥たちは、どこへ行ってしまったのか。春がきたが、沈黙の春だった』

「べつ」の道と題した終章で著者は語る。
『私たちの住んでいる地球は自分たち人間だけのものではない。この考えから出発する新しい、夢豊かな、創造的な努力には《自分たちノ扱ッテイル相手八、生命アルモノナノダ》という認識が終始光り輝いている。…近代人は化学薬品を雨あられと生命あるものに浴びせかけた。精密でもろい生命も、また奇跡的に少しのことではへこたれず、もり返してきて、思いもよらぬ逆襲を試みる。生命にひそむ、この不思議な力など、化学薬品をふりまく人間は考えてもみない。『自然の征服』これは人間が得意になって考え出した勝手な文句にすぎない。生物学、哲学のいわゆるネアンデルタール時代にできた言葉だ』

この本の著者は、米国ペルシルバニア州生まれのレイチェル・カーソン(一九〇七 - 一九六四)。発生源伝学、海洋生物学を専攻し、広い知識と洞察を持つ生態学者の著述家。本書は二十世紀の名著の一冊として、まだまだ広く読まれてほしい本である。

「沈黙の春」レイチェル・カーソン著 青樹繁一訳 新潮社一九九九年刊八刷

Book

図書館の新刊案内
中央図書館明徳館☎(32)9220
土崎図書館☎(45)0572
新屋図書館☎(28)4215



ティールームの誕生
＜美覚＞のデザイナーたち
横川善正/著
世紀末の産業都市グラスゴーで産声を上げた「ティールーム」。さまざまな芸術・文化の発信基地となったこの空間が、どのような成長をとげていったかを探ります。

一般書
総理の通信簿 - 歴代宰相の器を問う - 細川隆一郎/著
肥満遺伝子 - 肥満のナゾが解けた! - 蒲原聖可/著
速水御舟の真贋考 月山照基/著

児童書
たばこと健康といのち - 考えようあなたの健康といのち - 野津有司/著 (小学校高学年から)
植物あそび ながたはるみ/さく (小学校低学年から)
そこなしもりの まんなかで いとうひろし/さく (小学校低学年から)